令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　鶴見区

学 校 名　　茨田東小学校

学校長名　　弓削　壽志

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和４年４月19日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問紙調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・　　学校では、第６学年　　41名

学校名　茨田東小学校

令和４年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

本校と全国、大阪市の平均正答率を比較すると、国語科は、全国平均より5.6ポイント、大阪市平均より4.0ポイント下回っていた。算数科は、全国平均よりも2.2ポイント、大阪市平均より1.0ポイント下回っていた。理科は、全国平均よりも3.3ポイント下回っていたが、大阪市平均と同等であった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］
各領域では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」の漢字の問題は、全国平均を上回っている。「読むこと」「書くこと」の領域が特に課題である。無回答率は全国平均より低く、解決しようと取り組む姿勢がみられる。
［算数］
各領域では、「図形」領域は、全国平均を上回っている。プログラムで書く図形の問題は全国平均より大きく上回る等、プログラミング教育を研究主題としている成果が表れている。「数と計算」「データの活用」では、割合・データの特徴を捉える問題が課題である。
［理科］
各領域では、「エネルギー」「地球」領域で、全国平均を上回っている。「粒子」「生命」領域が大阪市平均を下回っており、与えられた情報の分析や解釈の力に課題がある。

質問紙調査より

児童アンケート「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」「自分と違う意見について考えるのは楽しい」は、全国平均を大きく上回っている。「友達と協力するのは楽しい」も全国平均を上回っている。学校アンケート「授業中の私語は少なく、落ち着いていると思いますか」についてももっとも当てはまると回答されている。子どもと教職員との信頼関係があり、規律ある授業が展開されることが学力向上につながっている。
しかし、全国平均より「１日当たりのテレビゲームをしている時間」が非常に長く、「授業以外での学習時間」が非常に短い状況があり、家庭との連携、啓発に努めていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

「プログラミング教育の実践」を研究の柱とし、各教科等の学習において気づきを促し、考える力の育成をすすめている。その結果、算数科の図形領域や多様な考えを用いて課題解決を図ろうとすることに対して成果が表れている。
今後は特に次の３点を中心にして取り組み、さらなる学力向上をめざす。
・基礎基本の力を身に着ける学習（読む・書く・新出漢字・計算の習熟）を徹底する。
・根拠を明確にして、「話す」「書く」「読み取る」ことを教育活動全般で実践する。
・短期記憶を長期記憶へ結びつけるために、アウトプットの実践（口に出して言う。説明する。考えを書く。練習問題をする。）を継続する。